

ナシの台木に関する研究

第4報 花粉親を異にした北支マメナシの台木の価値について

河瀬 憲 次

（果樹試験場口之津支場）

KAWASE, K.

Studies on the Rootstocks of Japanese Pear.

(4) On the Rootstocks of Hybrid of *Pyrus betulaeformis* and *Pyrus* sp.

前報（1962）では北支マメナシに対する交配親和性および花粉親を異にした実生の生育について報告とくに北支マメナシは完全な自家不結実性であるが同種の異栄養系間では高い親和性を示すことを明らかにした。今回はそれらの台木の価値を、10年間主としてユズハダ抵抗性の面から検討を加えたので、その結果の概要を報告する。

試験Ⅰ：北支マメナシに交配親和性の高いマメナシ区（*Micropyrus*）2種、雑種性区（*Intemedia*）2種を花粉親として得られた台木に对照区としてヤマナシ自然交雑の台木を加え、ユズハダに敏感な新世紀をついだ各6樹（反覆）を供試した。

試験Ⅱ：異栄養系間交配が可能なることから、俗にいう純系の台木、およびわが国の栽植環境から最も交雑しやすい日本ナシ（二十世紀）を花粉親にした台木にアイナシ交雑台を加え、新世紀をついだ各4樹（反覆）を供試した。

結果の概要：ユズハダ発現を抑制する程度は第1表に示すように、概して花粉親の異なる台木間の差は顕著でなく、むしろヤマナシ台に比べると差は明らかであった。また実用上問題となる真の北支マメナシ台と日本ナシとの雑種台と比較すると、第2表に示すとおり生育は前者が良好、したがって収量も多い。葉果比をほぼ同一にした場合でも1果平均重が大きくなる傾向がうかがわれる。なおユズハダ抵抗性も内容的にはやや前者がまさっているようである。

以上の結果から北支マメナシの台木は同種の異栄養系間交配で得られたものが、他の条件を加味してもやはり台木の価値は高い。しかし、一般に敬遠されている種間交雑実生の台木でも、慣用のヤマナシ台に比較すると、ユズハダ抵抗性台木としての価値は高いものと考えられる。

第1表 花粉親別、北支マメナシ台新世紀のユズハダ果発現（%）

台木の種類（♀×♂）		1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	平均
試験Ⅰ	北支マメナシ×朝鮮マメナシ	2.6	0	1.2	2.4	2.4	1.6	6.1	—	—	—	2.3
	" ×マメナシ	0	0	5.6	1.0	2.9	1.1	2.5	—	—	—	1.9
	" ×満州野生ナシ	0	3.6	0	0.7	0.8	0	5.4	—	—	—	1.5
	" ×（北支マメナシ×日本ナシ）	0	0	0	1.3	2.8	0.3	1.5	—	—	—	0.8
	ヤマナシ自然交雑	8.5	10.0	2.1	12.5	18.7	13.3	8.8	—	—	—	10.6
試験Ⅱ	北支マメナシ×北支マメナシ	—	—	—	—	0	0	0.6	1.1	0	0.7	0.4
	" ×アイナシ	—	—	—	—	5.2	0	1.7	1.7	1.4	0	1.7
	" ×日本ナシ	—	—	—	—	0	0	2.9	0	2.3	0	0.9

注) 1. 試験Ⅰ：1957年交配，1958年実生，1959年接木，1960年定植，1969年掘上げ
 2. 試験Ⅱ：1962年交配，1963年実生，1964年接木，1965年定植
 3. 北支マメナシ×北支マメナシは同種異栄養系間交配
 4. ユズハダ果率は外観上商品的価値の低下が明らかなるもの割合

第2表 花粉親別、北支マメナシ台新世紀の収量および果実の品質

台木の種類（♀×♂）	着果数	着果数	葉果比	1果平均重	収量	1葉当り果実生産量	ユズハダ発生の程度				糖度	果汁率
							無	軽	中	甚		
北支マメナシ×北支マメナシ	4,786	113.5	41.5	245	27.2	5.68	66.9	32.6	0.6	0	10.4	81.0
" ×アイナシ	4,700	116.0	40.5	238	27.6	5.87	56.0	42.3	1.7	0	10.6	78.8
" ×日本ナシ	3,538	78.7	45.0	231	18.5	5.23	51.4	45.7	2.9	0	10.3	81.6

注) 1. 着果数は4月15日現在
 2. 樹令5年生